

「愛岐留学生就職支援コンソーシアム」 会員企業・留学生ワークショップ

中経連が参画する「愛岐留学生就職支援コンソーシアム」では、活動の一環として中経連会員企業と当地域の大学に通う留学生に対し、相互理解を促進する場の提供を目的にワークショップを開催している。本ワークショップでは、参加企業が希望するテーマに関して膝詰めでのディスカッションが行われる。

開催日:10月11日(木)

場 所:名古屋大学

参加者:(株)ジェイエイシーリクルートメントから5名、名古屋大学・名古屋工業大学から留学生23名(中国・ベトナムなど計5カ国)

企業側から「就職活動を成功に導くために」と題した講義の後、留学生がグループに分かれ「日本で学んだこと」「あなたのキャリアで実現したいこと」「日系企業に期待すること」について意見交換を行った。

将来日本での就職を考えている留学生を対象に参加者を募集したこともあり、企業側もディスカッションに加わると、予定時間を大幅に超過するほど活発な議論や質疑応答が繰り上げられた。留学生からは、日本企業の「終身雇用」「年功序列」「総合職」に関する疑問や、「どうやって自分にあった日本企業を選択すればよいか」「自分の日本語力でやっていけるか」「自分の能力を伸ばすことができるか」など、真剣に就職に向き合った質問が多く出された。



ディスカッションの様子
左端の男性は講義を担当した海外進出支援室長の佐原氏

開催日:10月23日(火)・10月30日(火)

場 所:中部国際空港

参加者:中部国際空港(株)から8名、名古屋大学・名古屋工業大学・岐阜大学から留学生10名(中国などのアジア諸国や南米など計5カ国)

「セントレア空港のCS(カスタマー・サティスファクション)」をテーマに、1回目は、企業側から「セントレアの会社概要とCSの考え方」について説明が行われ、その後、許可を得て国際線出発エリア(免税店、出発ゲート前の待合エリアなど)の見学に移った。留学生は、出身国の視点で改善すべき施設を検討した。



国際線出発エリアの案内をする総務部の名倉氏(右端)と熱心に説明を聞く留学生たち

2回目は「ここがヘンだよセントレア」と題して、国籍・大学・専攻が異なる留学生たちがグループに分かれ、CS向上のアイデアを日本語(一部は英語)で熱心に議論した。その後の発表では、各国の文化・習慣・宗教等を反映したさまざまな意見が出され、多くの案が「新鮮な視点による意見」と企業側は感謝の意を述べた。企業側には外国人従業員も含まれており、見学や議論の合間に、日本の企業で働くことについての情報交換も行っていた。



空港運用本部のサビノズ氏(中央)を交えて熱く議論する留学生たち

(国際部 都島 嘉孝)

働き方改革セミナー

10月12日(金)、中経連は愛知県経営者協会と共催で、「働き方改革セミナー」を名古屋市にて開催し、約130名が参加した。



ご講演いただいた江川氏

セミナーでは、アクセンチュア(株)代表取締役社長の江川昌史氏を講師に迎え、働き方改革の実現に向けた経営者のリーダーシップやマネジメントのあり方、組織に新しい文化・風土を取り入

れていくための方法等についてご講演いただいた。

江川氏は、自社が取り組む組織風土改革『Project PRIDE』について、デジタル時代に活躍するクリエイティブな人材や女性に受け入れられる組織づくりを目的にスタートし、「ビジネスマナーの改善→倫理規定の周知→働き方改革」の順で推進してきたことを紹介。さらに、その中の働き方改革に関しては、自社のフレームワークを活用し、「方向性の提示と継続的な効果測定」「リーダーのコミットメント」「仕組み化、テクノロジー活用」「文化・風土の定着化」の取り組みについて詳しく解説を行った。最後に、「改革に近道はなく企業文化になるまで続けることが求められる」と締めくくった。

(企画部 岡戸 信之)

ベトナム ベンチェ省視察団 表敬訪問

10月22日(月)、ベトナム共産党常務副書記のファン・ヴァン・マイ氏ならびに在名古屋ベトナム名誉領事館名誉領事の夏目長門氏をはじめ21名が中経連を訪れ、小川専務理事以下の幹部らと懇談した。

小川専務理事は、「ベンチェ省は日本ではまだ知名度が低いので、今回の訪日を機に中部圏の企業等にベンチェ省に関する情報を多く広めていた

だきたい。中部圏はものづくりの集積地だが、人手不足が課題となっている。日本文化を理解し、当地で働くベトナム人が増えるのは心強い。相互に交流し、ベンチェ省の人たちが生き活きと働ける環境をつくって行きたい」と述べた。

ファン氏は、「ベンチェ省はメコンデルタ地帯に位置し、若く勤勉な労働力が豊富な農業地域である。近年はインフラ等を整備して海外からの投資を誘致しているが、日本の企業にはまだ広く知られていない。中部圏で働く多くのベトナム人の中にはベンチェ省出身者もいる。彼らは日系企業のベンチェ省進出の足掛かりとなる有力な人材として期待できる。今後も積極的に交流し、中部圏のものづくりに貢献するとともにベンチェ省の魅力を発信していきたい」と述べた。



(国際部 平山 りえ)

第2回愛知地域会員懇談会

11月1日(木)、中経連は愛知地域の会員との懇談会を開催し、活動全般に対する意見交換を行った。参加者からいただいた意見を、今後の事業活動、来年度の事業計画に反映させていく。

＜参加者からの主な発言内容＞

- 災害は必ず起きるという認識が必要。国土強靱化税制の整備・創設をぜひ推進してほしい。
- 海外の若い人材が、名古屋で快適に生活できる環境づくり、就職の場の提供が必要。
- 小売業界では、外国人観光客への商品説明をする人材が不足している。一方、外国人には就職先情報が足りないなど、マッチング問題が起きている。場の創設や情報の交換が必要。
- インバウンドの取り込みには、ユーザーの目線に立った、わかりやすく興味をそそる情報発信が重要。

- 愛知県には他地域に負けない魅力的な観光資源や生活環境が多くある。自信を持った情報発信をすべき。
- 伝統工芸は職人技の世界で継承が難しい。「個人」から「組織」で連携・活性化する仕組みが必要。
(総務部 伊藤 康隆)

日銀総裁と中部経済界との金融経済懇談会

11月5日(月)、黒田日本銀行総裁と中部経済界との懇談会が名古屋市にて開催され、中経連から豊田会長が出席した。



冒頭の講演で黒田総裁は、わが国の景気は緩やかに拡大しており、先行きも拡大基調は続くとしながらも、海外経済を巡る不確実性はこのところ増していると指摘

した。とりわけ、米中間の貿易摩擦をはじめとした最近の保護主義的な動きの帰趨やわが国経済へ及ぼす影響については、注意が必要との考えを示した。

続いて、地元経済界代表による発言に移り、豊田会長は、当地域経済については緩やかに改善しているとしたうえで、今後の見通しについては会員企業の多くが深刻な人手不足や米中間の貿易摩擦の拡大などを懸念材料にあげているとし、当地では特に米国の自動車輸入関税の引き上げに神経を尖らせている旨を述べた。また、日本銀行に対して、現行の金融政策を高く評価する一方で、物価目標の達成は日本銀行の政策だけでは困難との



考えを示し、政府とのさらなる連携の必要性を求めた。加えて、物価上昇率が目標に近づかない原因は、①サービス価格の伸び悩み、②力強さに欠ける消費の2点があるとし、既に日本銀行が持ち合わせている調査研究結果の開示や、原因分析などに力を発揮してほしい旨を要請した。

(調査部 山崎 豊)

定例記者会見



11月5日(月)、中経連は総合政策会議終了後、豊田会長の定例記者会見を行った。

はじめに、企業業績の実績値や予想値に見られる原材料高や米中貿易摩擦などの影響と、年末の発効が決まったTPP 11に対する自由貿易の推進力としての期待について述べた。

次に、10月19日に開催した「西日本経済協議会第60回総会」の報告を行い、「自ら動いて地域活性化を図り日本を動かそうという各地域の強い意気込みを感じた」と感想を述べるとともに、11月9日に予定する政府・与党への要望活動の取材を呼びかけた。

続いて、10月29日に開催した「第17回中部産業振興協議会」について、「中経連のイノベーションを促進するための機能づくり、人材育成について」をテーマに、大学の現状も踏まえ活発な意見交換が行われたと報告。今後の活動計画として、イノベーション拠点の機能に関する企画案を来年3月に公表するとともに、拠点候補地の検討を開始することを説明し、「先行する他地域を参考にしながら中部圏の特徴を生かした場を目指したい」と抱負を語った。

最後に、今年6月にスタートしたイノベーション人材育成プログラムに関して、来年3月に開講する第2クールの募集開始を報道関係者に案内した。

(総務部 奥田 知子)